

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 22 日現在

機関番号：32502

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24531072

研究課題名(和文)現代の学生文化と学生支援に関する実証的研究－学生の「生徒化」に注目して－

研究課題名(英文)Empirical study of student culture and student support - Focusing on "Pupilization" of students.

研究代表者

武内 清 (Takeuchi, Kiyoshi)

敬愛大学・国際学部・教授

研究者番号：30012579

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：学生文化の変遷を、学生調査のデータをもとに考察した。特に、大学の「学校化」、学生の「生徒化」という側面に注目した。調査は2013年秋に全国の15大学(国立3校、私立12校)の大学生2789名から回答を得た。データから、現状に満足している学生の「生徒化」が読み取れた。授業の出席率は上昇し、授業満足度、友人関係満足度、そして大学満足度も上昇した。学生は、真面目で、素直で、従順になっている、つまり「生徒化」している。その背景には、大学生の就職難への対応と大学改革や各大学の努力の結果でもある。

研究成果の概要(英文)：We have analyzed the change of student culture base on a survey in 2013 which was answered by 2,789 students at 15 different universities. This survey shows that the percentage of attending classes has increased and students are more satisfied with their relationship with classmates, professors, campus environment and campus life than before. University innovation and tough job market has influenced students to become more obedient and diligent which we call "pupilization" of students.

研究分野：教育社会学

キーワード：学生文化 学生調査 生徒化 大学満足度 授業満足度 大学改革

1. 研究開始当初の背景

大学改革の焦点は、これまでのところ、授業や教育課程に焦点が当てられることが多かった。しかし、学生の成長を促すという視点からすると、学生の生活や学生支援に注目すべきであろう。

大学全入時代になり、さまざまなタイプの学生が大学に入学するようになり、大学生生活の送り方に途惑う学生も多い。高校時代までに基礎学力のみならず、学習態度の形成されていない学生も多い。

初年次教育やリメディアル教育が教員によってなされているが、それらは学生の意欲や生活態度と結びつきが重要になっている。高校までの習慣で、授業には出席するがおしゃべりはやめられない学生、クラスに友人のいないため授業に打ち込めない学生、アルバイトで夜遅くまで働いてつい授業中居眠りしてしまう学生など、授業への意欲や受講態度には学生の生活態度との関連が見られる。

これまで、学生支援は教育指導とは切り離され、大学の補助的な活動として、主に大学職員によって担われてきた。しかし、学生の大学でのトータルな生活や成長を考える時、教育支援と学生支援との結びつきや、学生支援に対する教員の役割や教員と職員の協働(教職協働)が今求められている。

キャリア支援やボランティア活動が単位化され、職員も学生の学習に関与するようになっている。学生支援GPや各種GPの企画、運営には職員が中心となることが多く、職員の教育力が問われるようになっている。

学生支援を巡って、昨今の大学教員と職員の役割分担はどのようになり、またどのように今後すべきとそれぞれが考えているのか、そして学生の文化やキャンパスライフの実態から考えると、どのような学生支援の形態が好ましいのか、その点を明らかにする必要性に迫られている。

2. 研究の目的

現在各大学は、学生の入学から卒業までのさまざまな学生支援を展開している。これまで学生支援は大学職員が中心で教員がその一部にかかわるのが一般的であったが、現在は、大学のカリキュラムの中に学生支援的要素(たとえばキャリア科目)が入り、教員と職員の役割分担は再考を迫られている。

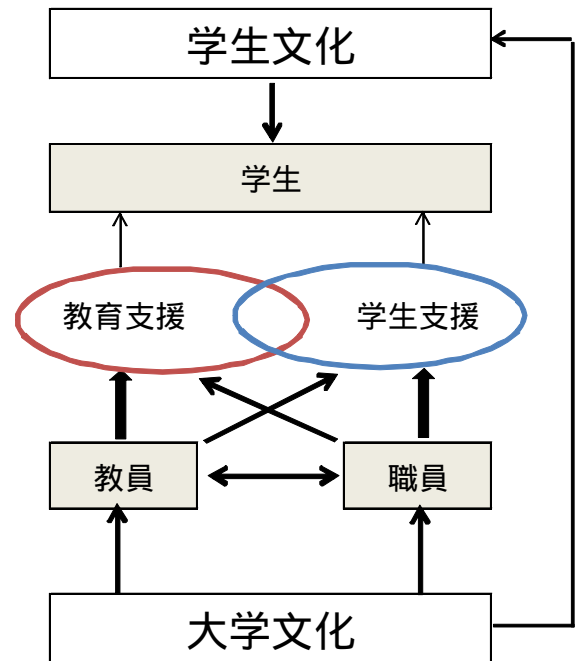
またそれは各大学の大学間格差に規定された学生文化の特質とも密接に関連している。各大学の学生文化に対応した学生支援の在り方はどうあるべきなのか。学生文化と各大学の学生支援の実態を調査し、学生支援における教員と職員の役割分担及びその実際の手法をその成果とともに実態調査によって明らかにし、有効な学生支援策を提言する。

3. 研究の方法

大学の「教育力」を要素に分けると、「大学力」「教師力」「職員力」「学生力」の4つ

に分けることができる。この4つの要素が、学生支援に働いている。この4要素の実態を、調査から明らかにする。

2013年度は、学生に対してのアンケート調査を実施し、学生支援の実態と効果を明らかにする。そこでは、過去(1997年、2003年、2007年)に行った調査データとの比較を行い、学生文化の特質と学生支援との関連を明らかにする。2014年度は、調査で得られたデータを、学生文化、学生支援、教職協働との関連でまとめ、提言をする。



4. 研究成果

本研究のメインは、2013年度に実施した14大学1771名を対象にした大学生調査のデータ分析の分析である。そこでは、過去の大学生調査のデータと比較すると同時に、調査した大学生のキャンパスライフのさまざまな側面(勉学、部・サークル活動、アルバイト、将来像、趣味行動、メディア行動、ジェンダー意識)を実証的に明らかにした。その分析のポイントの一つは、学生の「生徒化」現象である。その社会的要因を探ると同時に、キャンパスライフに与えるインパクトや意味を考察した。

さらに、学生文化や学生支援の背景となっている青年文化や大学の様子を、個別的に考察した。また先進的な大学改革、学生支援を進めている一つの大学のインタビュー調査も実施し、その具体的方法を紹介し、一般化の方法を示した。

研究成果は以下の発表論文等に示したが、とりわけ、最終報告冊子『現代の学生文化と学生支援に関する実証的研究 学生の「生徒化」に注目して』(2015年3月、229ページ)では、9名の執筆者により、この科研の研究成果を詳細に記述した。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 8 件)

岩田弘三、「大学の学校化」と大学生の「生徒化」、武蔵野大学教養教育リサーチ最終報告センター紀要 The Basis、査読なし、第5号、2015、65-87。

岩田弘三、日本における1994年以降の大学院生の学生生活費支出・収入の動向 - 『生協大学院生調査』データを中心に -、『武蔵野大学教養教育リサーチセンター紀要 The Basis 査読なし、第4号、2014、51-74。

岩田弘三・北條英勝、学生生活評価を取り込んだ武蔵野大学全学基礎教育課程の授業評価に関する分析、武蔵野大学教養教育リサーチセンター紀要 The Basis、査読なし、第3号、2013、21-41。

岩田弘三、大学生生活費とキャンパス文化の推移、バブル崩壊後の学生の変容と現代学生像 - 「学生生活実態調査をはじめとした調査分析」報告書 -、査読なし、全国大学生生活協同組合連合会、2012、67-83。

浜島幸司・武内清、敬愛大生の子どもの期の経験が青年期に与える影響、『敬愛大生のキャンパスライフ(その2)』敬愛大学・研究プロジェクト編、査読なし、2015、46-55。

武内清・浜島幸司、「大学満足度と社会意識、『敬愛大生のキャンパスライフ - 「敬愛大学学生調査」(2013年)の分析 - 』敬愛大学・学内共同研究グループ編、査読なし、2014、51-65。

浜島幸司、大学生の大学滞在時間 - 4 時点(1996年・2001年・2006年・2011年)の比較から -、『武蔵野大学教養教育リサーチセンター紀要 The Basis』、査読なし、第4号、2014年、99-113。

浜島幸司・谷田川ルミ、大学生生活の充実度の分析、バブル崩壊後の学生の変容と現代学生像 - 「学生生活実態調査をはじめとした調査分析」報告書 -、査読なし、全国大学生生活協同組合連合会、2012、48-66。

[学会発表](計 4 件)

武内清・浜島幸司・岩田弘三、大学の「学校化」と大学生の「生徒化」に関する分析 - 2013年15大学調査をもとに -、第66回日本教育社会学会、松山大学(愛媛県)2014年9月13日。

浜島幸司・武内清、子ども期の経験が青年期に与える影響 大学生調査から、第21回日本子ども社会学会、敬愛大学(千葉県)2014年6月28日。

武内清・浜島幸司・谷田川ルミ、大学生生活充実度の時点間分析 「学生生活実態調査」(全国大学生生活協同組合連合

会)を用いて、第65回日本教育社会学会、埼玉大学(埼玉県)2013年9月15日。

武内清・浜島幸司、大学生の「生徒化」をめぐって、第20回日本子ども社会学会、関西学院大学(兵庫県)2013年6月28日。

[図書](計7件)

武内清、『学生文化、生徒文化の社会学』ハーベスト社、2014、254。

武内清・浜島幸司・岩田弘三、他『現代の学生文化と学生支援に関する実証的研究 学生の「生徒化」に注目して』(2015年3月、229ページ)

浜島幸司、「第4章 私が学生支援GP管理運営者になるまで」、大島勇人・浜島幸司・清野雄多著『学生支援に求められる条件 学生支援GPの実践と新しい学びのかたち』、東信堂、2013、54-68。

浜島幸司、「第5章 学生支援GP管理運営者の混乱」、大島勇人・浜島幸司・清野雄多著『学生支援に求められる条件 学生支援GPの実践と新しい学びのかたち』、東信堂、2013、69-88。

浜島幸司、「第6章 学生支援GP実践の成果」、大島勇人・浜島幸司・清野雄多著『学生支援に求められる条件 学生支援GPの実践と新しい学びのかたち』、東信堂、2013、89-114。

浜島幸司、「第7章 学生支援GPを経て残された課題」、大島勇人・浜島幸司・清野雄多著『学生支援に求められる条件 学生支援GPの実践と新しい学びのかたち』、東信堂、2013、115-125。

浜島幸司・大島勇人・清野雄多、「終章 学生支援に必要な条件」、大島勇人・浜島幸司・清野雄多著『学生支援に求められる条件 学生支援GPの実践と新しい学びのかたち』、東信堂、2013、213-237。

[その他]

ホームページ

<http://www.takeuchikiyoshi.com/>

6. 研究組織

(1)研究代表者

武内清(Takeuchi Kiyoshi)
敬愛大学・国際学部・特任教授
研究者番号：30012579

(2)研究分担者

岩田弘三(Iwata Kozo)
武蔵野大学・人間科学部・教授
研究者番号：70176551

濱嶋幸司(浜島幸司)(Hamajima Koji)

同志社大学・学習支援・教育開発センタ

一・准教授

研究者番号：50459278